

【日 時】 平成 26 年 3 月 7 日

【訪問先】 小田中学校 藤代慎一校長

【概 要】 児童数 418 名 15 学級 各学年 4 学級 特別支援学級 2 組 教職員数 27 名 職員 2 名

【視察報告】

1. 校長先生のモットー

『圧倒的パフォーマンスを見せてくれ』 準備は周到に行い、本番では全力を出し切れる生徒になって欲しい。
ただし、結果は問わない。プロセスと 100% の実力発揮が大切。

2. 英語・国際教育の取り組み

外国籍の生徒はいない。外国に繋がる生徒もいない。
横浜市内でも地域によって様々な生徒の構成になる。

3. 地域のボランティアの協力

小田小学校に赴任した 3 年前は、必ずしも近所の評判は良くなかったが、最近は少しずつ変わってきている。女子のバレー部は元実業団の近所の人に指導してもらっている。茶道部も近所に住むの師範の先生が 2 人。花壇の手入れをしてくれていた PTA のボランティアは卒業後も続けてくれている。学校家庭地域連絡会で声掛けいただいて夏祭りには模擬店を出展している。

4. 地域との防災の取り組み

地区推進連絡会と大災害時の協力について協議をしている。
平日の日中に大災害が発生して大人が働きに出ている時に頼りになるのは中学生。
大災害時の中学生による高齢者へのケアの方法などを検討している。
隣の小田小学校との小中合同引き取り訓練では、消防の富岡出張所の所長も協力してくれた。

5. 道徳教育や郷土愛を育む取り組み

人権教育には力を入れている道徳教育ではないが、生徒の心を育てるのには役に立つ。
道徳教育は強化になると生徒の評価をつけるのは難しい。

6. 体力強化や部活動の取り組み

運動部を中心に熱心に部活には取り組んでいる。陸上部には全国トップクラスの選手もいる。

7. 学校組織の強化・人材育成

明治 5 年の学生スタート以来、この 10 年間で 150 年分の変化が起きている。
やらなければならない計画・評価・報告が山積して、子供と向き合う時間がどんどん削られている。
10 年目以下の教師が 54%、各校に毎年 2 人ずつ新卒が来る。次々入る新人を育てるのには苦勞している。
子供と向き合っこそ教師は成長するがその時間もない。50 代の教師が全部良い教師なわけでもない。

8. その他

隣接の小田小学校とは交流があり運動会の手伝いをしている。小中合同で防災ワークショップ。
スマホ・携帯は持ち込み禁止だが、所持率は 100% 近いはず。保護者からも持たせたいと要望がある。
LINE で呼びかけて外部の学生と集団けんかなどされても対応しようがない。新しい課題のひとつ。

【所 感】

若い教師が一人前になるのには時間もかかるし、現場での様々な経験が不可欠なのにその時間もどんどん削られている。
スマホや携帯電話やネットを通じたいじめの問題なども新しい問題だが、それに対処しようとしても保護者が子供に甘くて携帯電話を持たせない学校が非難されるようでは対処しようがない。教育現場の抱える矛盾や課題を指摘していただき、現場のナマの声を聞かせていただいた。

